

現代のようにテレビばかりと向き合っていると、自分の頭を使わなくなるといこともテレビの弊害の一つといえるでしょう。

たとえば名作がテレビ化されたとします。それを見るのと本で読むのでは全然違うのです。本を読んで、自分の頭でそれを味わって描いていくことこそが大切です。

自分の頭で描くものは、どんな立派な作品より美しいのです。それがテレビという安易なものを通してでは、自分で考えることをしないで与えられるだけになりますから、子どもの脳はあまり刺激されないのです。

赤ちゃんの頃はテレビはあまり好ましくありません。少なくとも最初は益よりも害のほうが多いでしょう。ある程度言葉が認識されて、テレビから流れる言葉がわかってくるようになって、その番組が内容のあるものでしたらもちろん有益ですが、コマーシャルのやたらと多い民放番組をつけっ放しにするようなことは問題があると思います。

私の子どもが幼稚園や小学校低学年の頃は、「名犬リンチンチン」とか「名犬ラッシー」とか30分番組がありましたので、これを一日に一つだけ選んで見せていました。内容のこともありましたが、それ以上にテレビの画面を長時間見ることは目を悪くすると思っていましたから、一日

に見る時間を決めていました。兄妹で毎日相談して見ていたようです。

小さいときの習慣というのは抜けないもので、娘は今でもあまりテレビを見ないようで、食事をするときなども静かに食べることを好むようです。ただし小さい時からベートーヴェンやシューベルトのレコードをよく聴かせていましたから、クラシック音楽は好きで、いつも流しているようです。

私の子どもの頃と追って、テレビが氾濫している時代になっていますから、まったくテレビを見せないということは無理でしょうが、テレビに子守りを押しつけるようなことは絶対に避けるべきでしょう。